

21世紀の情報管理専門職の養成について

岡崎, 敦

九州大学大学院人文科学研究院歴史学部門 | 九州大学統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻

<https://hdl.handle.net/2324/1868359>

出版情報 : pp.1-, 2017-11-17. Department of Library Science, Graduate School of Integrated Frontier Sciences, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

シンポジウム「情報管理専門職をめぐる民間企業と大学・学界
—記録情報管理の現状と研究教育・人材育成—」

21世紀の情報管理専門職の養成について

九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻
岡崎 敦

2017年11月17日



九州大学

0:はじめに

-1:自己紹介

1)九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻専任教員

- 2011年修士課程、2013年博士後期課程設置
- 情報の管理と提供という課題の刷新
- 情報管理の統合と、それを担う専門職養成

2)本日のシンポジウムの主催者を代表して

- 情報管理の新しいステージを展望
- 研究、教育、キャリア形成をセットで考える

0:はじめに

-2:この報告の流れ

1)アーキビストの世界的**職務標準**の特徴分析

2) **情報管理**の現在の特徴

アーカイブズ学と図書館情報学との接近

3) **民間企業の情報管理**とそれを担う**専門職人材養成**

1: 情報管理専門職とはどのような仕事か？

-1: 欧米におけるアーキビストの職務標準

1) アメリカ・アーキビスト協会。『アーカイブ学大学院教育プログラムガイドライン(2016)』

アーキビストは、アーカイブズ資料を、体系的に同定、選別、保護、組織化、記述、保存および利用者が利用可能なようにする。アーカイブズ資料とは、広く定義された社会の記録および資料のことで、形式や媒体の如何を問わない。アーキビストは、社会の文化的・社会的遺産を保存、継承し、個人および組織の法的権利を保護し、市民が彼らの政府や組織が適正な業務を執行していると判断する助けをする。すなわち、アーカイブズやアーキビストは、民主的で教育化された社会においてもっとも重要なものである。

1: 情報管理専門職とはどのような仕事か？

-1: 欧米におけるアーキビストの職務標準

2) フランスアーキビスト協会。ポスト標準(2014)

アーキビスト・マネージャーは、所属する組織のアーカイブズに関するレコードマネジメント、収集、保存、処理、公開および価値付けについて責任を負う。彼/彼女は、以下のような活動をコーディネートし、監督する。

—アーカイブズを産出する**原局との関係**: 助言、注意喚起、教育、移管手続き策定、情報の内的利用

—アーカイブズ学的な**処理スケジュール**: 選別、廃棄、分類、アーカイブズ学的**記述**、アーカイブズ目録作成

—資料の**物理的保存**: 排出の組織化、保存空間の制御、予防的保存

—一般公衆**受入**、および**文化遺産政策関与**

1: 情報管理専門職とはどのような仕事か？

-1: 欧米におけるアーキビストの職務標準

2) フランスアーキビスト協会。ポスト標準(2014)

彼/彼女は、他方、**組織のアーカイブズ機能の管理責任**を負う。つまり、**資料管理政策やプロジェクトの作成や評価、他の類似機関との協調、作業手続きの定義や監督、人事、手段の管理**などである。また、彼/彼女は、外部に対して、**組織のアーカイブズ**を代表する。

彼/彼女は、この職業の発展のためにその専門性を役立てる。

1: 情報管理専門職とはどのような仕事か？

-1: 欧米におけるアーキビストの職務標準

3) オーストラリアアーキビスト協会、記録情報管理専門家協会『レコードキーピング専門家の知識声明(2006, 2011)』

レコードキーピング専門家は、社会や共同体、組織が、自分たちの決定や行為、記憶の意味をきちんと理解しようとするのを助ける。レコードキーピング専門家は、記録やそのコンテクストが属する過去、現在、未来の諸次元の間のもっとも重要な架け橋を提供する。

それは、記録を生み出した環境や、記録がその環境の証拠として役割を果たすやり方を理解することを通してである。

。

1: 情報管理専門職とはどのような仕事か？

3) オーストラリア

レコードキーピング専門家は、以下の行為を行う。

1. **レコードキーピング枠組みの設定、維持、管理**。レコードキーピング枠組みは **アカウントビリティとガバナンス**を可能とする

記憶とアイデンティティを保存する

情報を提供する

2. **レコードキーピングプロセスとシステムを設定、維持、管理**。レコードキーピングプロセスとシステムは、

社会と業務活動の真正、信頼、利用可能な記録を補足、維持、管理
個人、組織および社会の必要と期待に応える

3. 実践あるいは行動規範に明示された倫理的活動を通して、**理論と実践を適用**

4. レコードキーピング理論、実践および倫理の**啓発**と理解を進めるため、専門職を代表して発言する役割に積極的に関与

1: 情報管理専門職とはどのような仕事か？

-1: 欧米におけるアーキビストの職務標準

4) イギリスおよびアイルランドのアーカイブズおよび記録協会

レコードマネジメントキャリア

レコードマネージャーの仕事は、

—業務上の目的のための決定を行うことをサポートするため、正しい情報、つまり政策や活動、さらには紛争時のサポートの証拠となり得るような情報が、効率的に入手可能な状態にすること

—紙媒体あるいは電子記録の作成と維持に関する法的義務を満たすこと

—作成・保存された記録の塊を管理することで、効率的な業務を維持すること

—歴史的および研究上の目的のために保存すべき資料を同定すること、およびその他の記録はできる限り早く廃棄すること

1: 情報管理専門職とはどのような仕事か？

-1: 欧米におけるアーキビストの職務標準

4) イギリスおよびアイルランドのアーカイブズおよび記録協会

アーカイブズキャリア

アーキビストの仕事は、**アーカイブズ遺産およびそのなかに含まれる情報を保存、価値付けすること**である。そこには、利用者を助け、質問に答え、宣伝する業務も含まれる。後者には、展示、講演、その他のメディア活動などがある。

また、アーカイブズの選別、編成、目録化する**情報管理上の記述**も必要である。

さらに、**上級レベルのアーキビストは、予算やスタッフ、経営戦略の管理のような、行政管理上の業務を執行する。**

1: 情報管理専門職とはどのような仕事か？

-2: 諸特徴

0) 前提となる諸状況

—電子化:

デジタル環境のなかでの業務の完結。情報保存環境の変容(倉庫からクラウドへ)

—情報共有の拡大:

国際化、標準化、ビッグデータ

—情報管理の統合

1: 情報管理専門職とはどのような仕事か？

-2: 諸特徴

1) 事前的介绍:

—生成段階からの全過程への介入の必須、統合的管理(電子記録時代)の必須

—評価選別論の変容:

事後的価値付けから、ヴァイタル資料の評価決定

1: 情報管理専門職とはどのような仕事か？

-2: 諸特徴

2) 階層化されたキャリア:

— キャリアと給与体系、さらには、これに対応する学位、教育システムがリンク

— 上級「専門職」とは、専門領域をマネジメントする管理職 <-> 特殊技能を有する末端技術者ではない

1: 情報管理専門職とはどのような仕事か？

-2: 諸特徴

3) マネジメントと「価値付け」戦略への関心の高まり

— 業務管理自体との統合

— 「新たな価値付け」: 組織運営、社会との関係

— 「世界文化遺産」政策、戦略: UNESCOの戦略、
日本政府の政策、文化財保護法改正

1: 情報管理専門職とはどのような仕事か?

-3: 民間領域の動向

1) レコードマネジメント:

証拠、アカウントビリティ、コンプライアンス

2) ビジネス・アーカイブズ:

組織のブランド戦略、「社史」の変容

3) 統合された情報管理と、「公共的」価値付けへの 参入: トータル・アーカイブズ

2: 情報管理の現在的特徴: 統合へ

-1: 文書記録管理の情報管理全般への統合

1) 「資料」の「証拠」的価値の保存

—「証拠」: コンテンツではなく、**正当な手続き遵守** 確認。それが刻印された「かたち」

—**真正性、信頼性の保証**: 「かたち」から**メタ情報**へ

—電子環境のもとでの**資料の変容**: マイグレーション必至時代の**「証拠」性の保存**

2: 情報管理の現在的特徴: 統合へ

-1: 文書記録管理の情報管理全般への統合

2) 資料の**価値の「再創造」**の必要性

ービッグデータと情報学(マイニング)

ーコンティニューアム理論における**「アーカイブズ(公共的)」次元の導入(資料を生み出した組織を越えた価値)**

レコード・コンティニューム理論

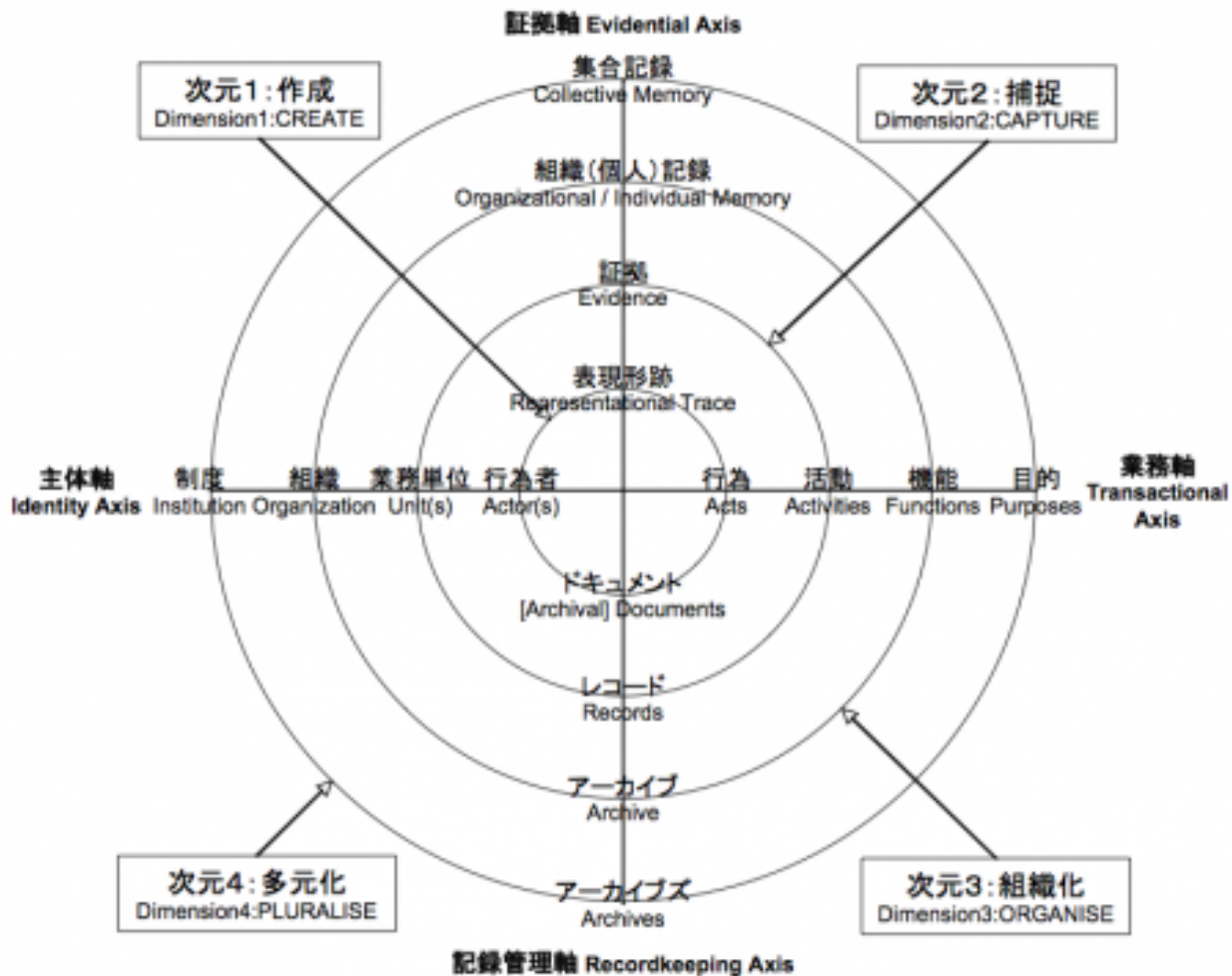


図2 Records Continuum Diagram

出典：Frank Upward "Structuring the Records Continuum - Part One: Postcustodial principles and properties" 1996

<http://www.sims.monash.edu.au/research/rcrg/publications/recordscontinuum/fupp1.html>

2: 情報管理の現在的特徴: 統合へ

-1: 文書記録管理の情報管理全般への統合

3) 専門職のあり方に関する発想の転換

— 個々の特殊技術に秀でた技術者から、社会的分業のなかで**特定領域に責任をもつ専門職**へ

— 個々の技術の管理から、**システム全体のマネジメント**へ

— 国際化、「社会化」のなかでの新たな**情報の共有と「価値付け」戦略**への対応

～ **情報管理の鍵を握るのは、メタ情報管理**

2: 情報管理の現在的特徴: 統合へ

-2: メタ情報管理の現在

- 1) ICA, EGAD (Experts Group on Archival Description),
Records in Context (RiC). A Conceptual Model for Archival
Description (2016)

実体・関係モデル <= > 記述単位、マルチレベル記述

実体 Entities

Record, Record Component, Record Set

Agent, Occupation, Position

Function, Function (Abstract), Activity, Mandate

Documentary Form, Date, Place, Concept/Thing

図書館情報学におけるFRBRやRDAとの共通性

ICA, General International
Standard Archival Description
(ISAD(G)), 2nd Ed., 2000
「アーカイブズ資料記述国際標準」

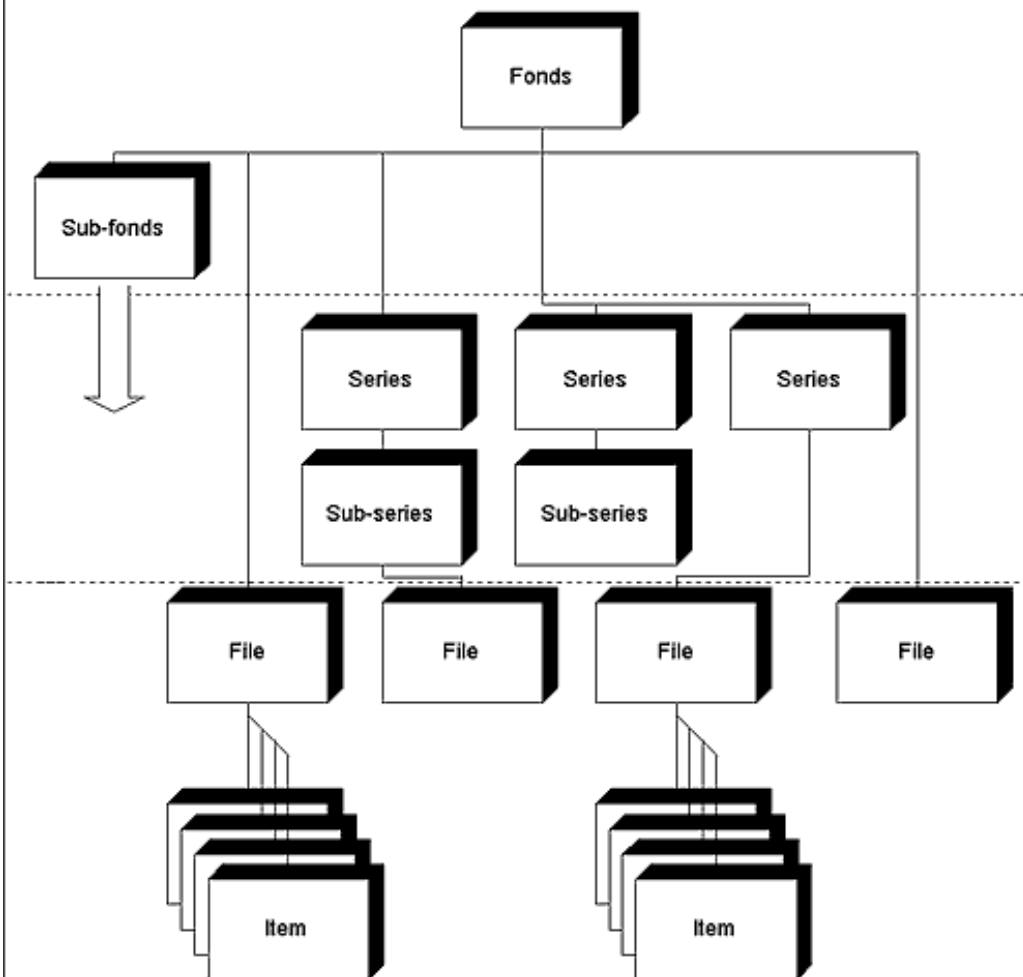
資料の群としての把握
群の階層構造把握

APPENDIX

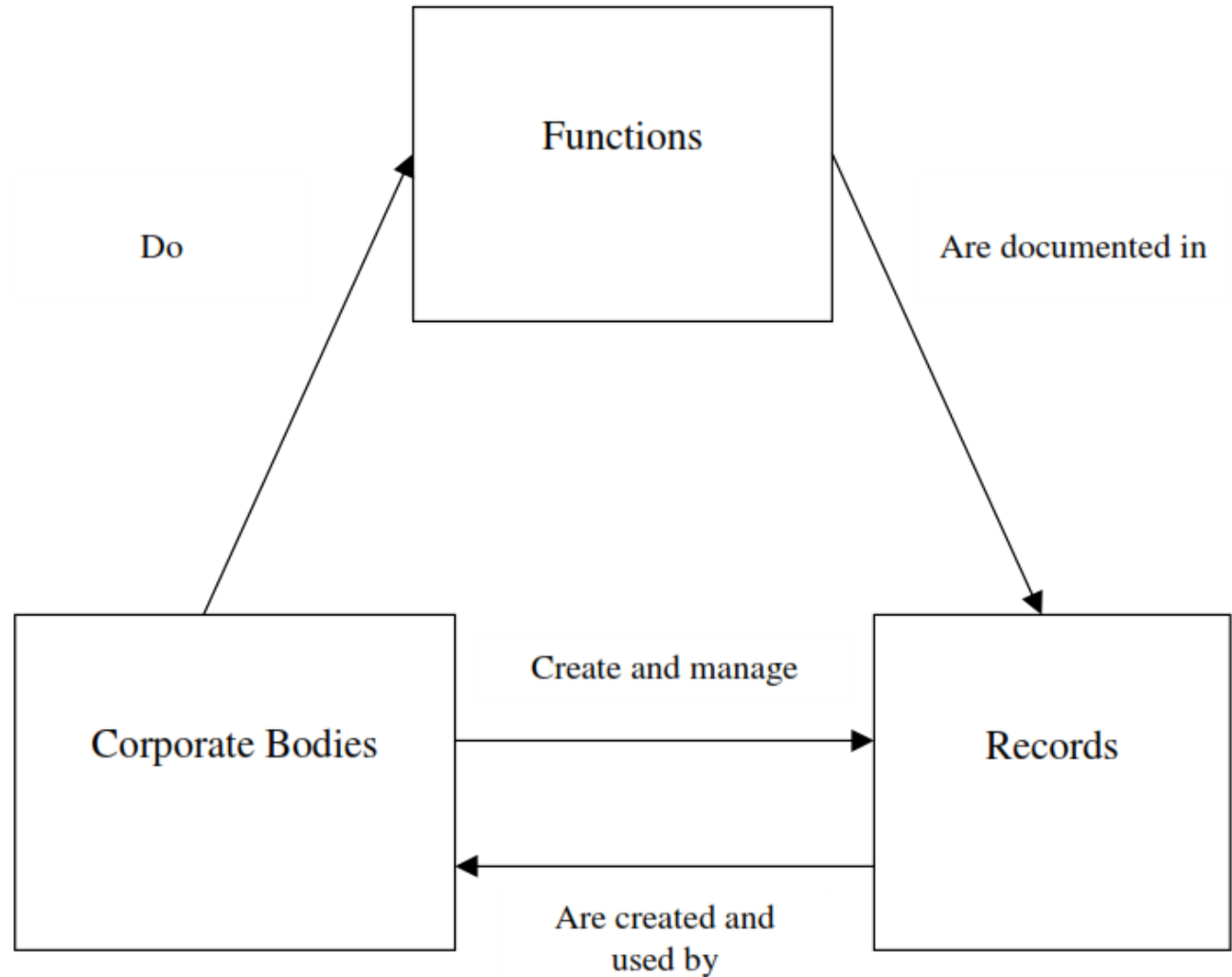
A1 The model shows some typical situations and does not include all possible combinations of levels.

A2 Any number of intermediate levels are possible between any shown in the model.

MODEL OF THE LEVELS OF ARRANGEMENT OF A FONDS



ICA, International Standard for Describing Functions (ISDF), 2007,
Appendix A 「機能記述の国際標準」



2: 情報管理の現在的特徴: 統合へ

-2: メタ情報管理の現在

2) **FRBR: Functional Requirements for Bibliographic Records** (1998/2009) 「書誌レコードの機能要件」

目次

1. 序論
2. 目的、射程、方法論
3. 実体 Entities
4. 属性 Attributes
5. 関係 Relationships
6. 利用者タスク User Tasks

2: 情報管理の現在的特徴: 統合へ

-2: メタ情報管理の現在

2) FRBR

3. 実体 Entities:

- 1) 著作 Work、表現形 Expression、**体現形** Manifestation、**個別資料** Item
- 2) 個人 Person、家族 Family (RDAで追加)、団体 Corporate Body
- 3) 概念 Concept、物 Object、出来事 Event、場所 Place
- 4) 集合的実体と構成的実体

2: 情報管理の現在的特徴: 統合へ

-2: メタ情報管理の現在

2) FRBR

4. 属性 Attributes:

「**著作**」: タイトル、形式、成立日付、想定終期、想定利用者、著作成立の背景、演奏手段、番号表示、調、経緯度、分点

「**体現形**」: タイトル、責任表示、版・刷表示、出版値・頒布地、出版社・頒布者、出版・頒布日付、制作者、シリーズ表示、キャリアの形態、キャリアの数量、物理的媒体、キャプチャー・モード、キャリアの大きさ、識別子、取得・アクセス認証ソース、入手条件、アクセス制限、書体、活字のサイズ、丁付け、対照事項、刊行状況、順序表示、再生速度、音溝幅、カッティングの種別、テープの形状、音響種別、特殊な再生特性、色彩、縮率、極性、世代、映写方式、システム要件、ファイル特性、アクセス方法、アクセス・アドレス

2: 情報管理の現在的特徴: 統合へ

-2: メタ情報管理の現在

2) FRBR

5. 関係 Relationships

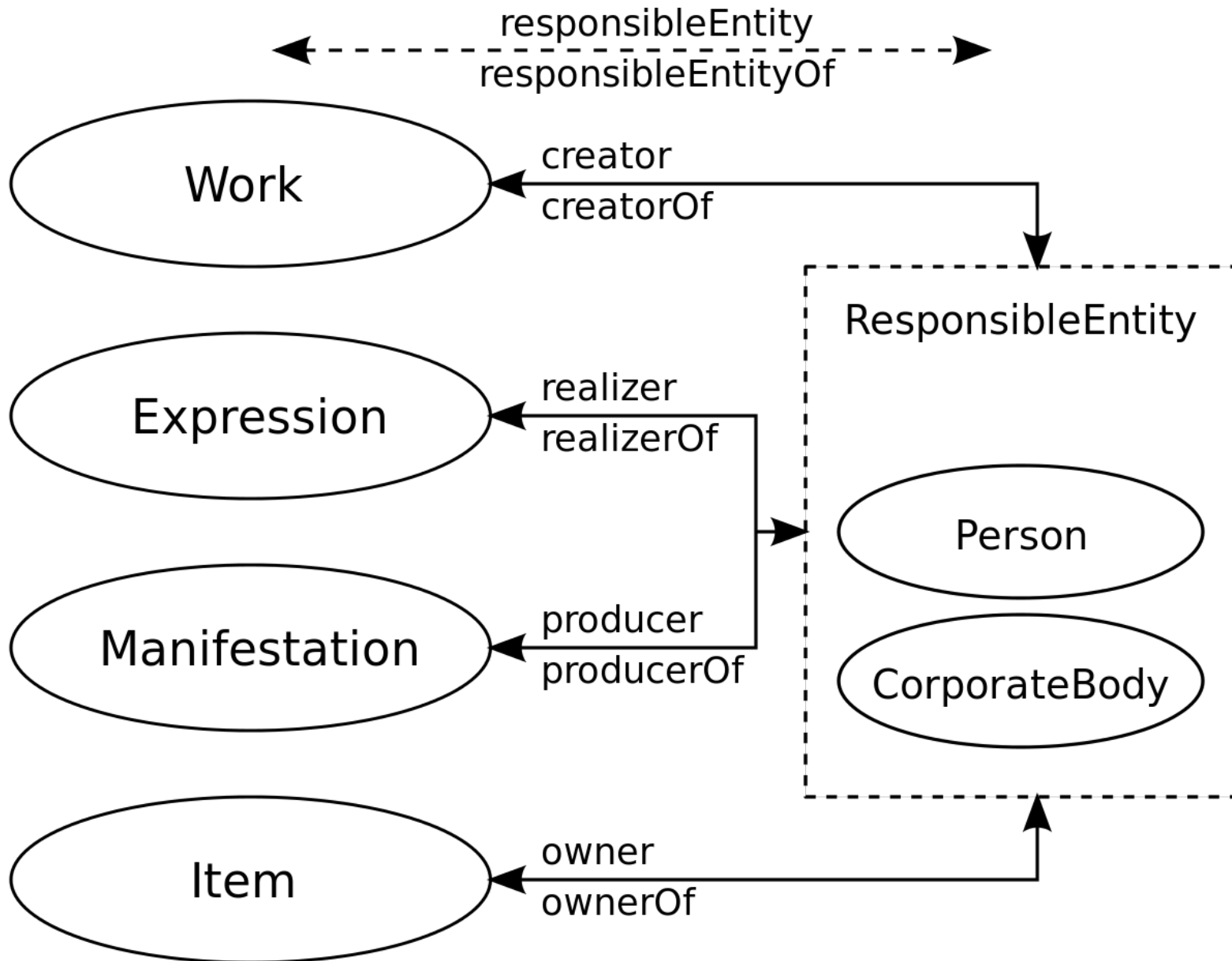
例) 著作1 J. S. BachのGoldberg variations

表現形1 1981年に録音されたGlen Gouldによる演奏

体現形1 1982年にCBS Recordsが33 1/3 rpmの録音ディスクでリリースした録音

体現形2 1993年にSonyがコンパクト・ディスクで再リリースした録音

3) Entities/Relationsモデル: 資料の前提となる「主体」の「行為」と「関係」の記述



2: 情報管理の現在的特徴: 統合へ

-3: 情報管理における**事前および全体・統合的介入**
($\langle = \rangle$ 伝統的な事後的介入)

1) 電子記録時代における事前介入

—アーカイブズ学における**マクロ評価選別理論**

—図書館情報学における新しいメタ情報記述提案の意義:

「資料」の事後観察ではなく、「しごと」の**機能**についての理論的定義

2: 情報管理の現在的特徴: 統合へ

-3: 情報管理における事前および全体・統合的介入
($\langle = \rangle$ 伝統的な事後的介入)

2) コンテキストとプロセス、特に価値(証拠性)記述の統合

—アーカイブズ学における「証拠」性の保持:
真正性、信頼性

—図書館情報学における資料の性格同定:
資料の評価情報、価値付け情報

2: 情報管理の現在的特徴: 統合へ

- 3: 情報管理における事前および全体・統合的介入
($\langle = \rangle$ 伝統的な事後的介入)

3) 情報管理業務の変容

—「資料の事後的処理」から、「**業務自体のコントロール**」へ
(業務の真正性・信頼性保証、評価の業務への組み込み、
業務過程における参照情報の制御)

—大学における業務管理、研究・教育・運営活動と一体化:

「**しごと**」の**プロジェクト管理**。研究・教育を含めた管理運営
情報の評価。評価と戦略の見直し

2: 情報管理の現在的特徴: 統合へ

-4: 価値付け戦略

1) アーカイブズの「社会的」価値付け:

「公共的」価値創造と社会。広報・ブランド戦略

2) 組織内の多様な知識、情報の価値の再発見と利活用:

ナレッジ・マネジメント、眠っている知的資産の再評価(人的資源、過去の特許・知的財産など)。組織の活動を最大化するための情報管理

3) 組織のアイデンティティ確認、再創造:

知識生産と業務管理の双方が対象

3:民間企業の情報管理ミッションと専門職養成

-1: 主要なミッションと関係部局

1) **経営管理部門**との結合: 総務、法務、財務系; 監査、評価

2) **研究開発部門**との結合: 研究痕跡管理、研究成果管理、評価

3) **企業の社会的責任CSR**との関係:

社会諸集団との共生関係、組織外活動への積極的関与;
広報・ブランド戦略とのリンク

4) **情報管理の専門企業**との関係

3:民間企業の情報管理ミッションと専門職養成

-2:専門職の位置づけ

1) 組織内:

- 経営中枢における位置づけ
- 監査・評価、広報部門との相性の良さ

2) 組織外(情報管理専門企業等):

- 責任者として全体を統合管理・設計・実施
- 単純労働、特殊労働、特殊なハード部門(建物、設備、情報技術など)、特殊な専門業界(監査、広報、情報ソフト産業など)

3:民間企業の情報管理ミッションと専門職養成

-3:専門職養成とキャリア形成の連動

1)教育カリキュラム、専門職資格構想における民間企業の
参与(共同での教育開発):

ーダブル・ディグリー

ー学位と教育カリキュラムの違いに応じた専門職資格および
キャリア形成

～大学院修了レベルの専門職の明確な差別化

3:民間企業の情報管理ミッションと専門職養成

-3:専門職養成とキャリア形成の連動

2) 研究開発・教育における企業と大学との連携:

共同研究開発、目的が明確な中長期のインターンシップ

3) 情報管理諸領域の連携:

ーミッション・基礎教育の統合(公文書管理、ビジネス・アーカイブズ、知識情報基盤ほか)

ー個別専門分野における連携の推進(図書館、文書館などの区切りではなく、実際の業務に応じた新たな関係)

まとめ

-1: 国際化、情報化環境における情報管理の統合に即した**専門機関、専門職のミッションの再定義、教育とキャリア形成の再構築**

1) 「事前介入」の必至(業務プロセスへの介入):

レコードマネジメントとアーカイブズ管理の統合、知識・情報生成過程への介入

2) 「情報管理」政策への積極的介入:

「業務・しごと」管理自体への介入。「管理職」としての専門職の位置づけ。「内容」よりも「証拠」的価値重視。プロジェクト管理

まとめ

- 2: 教育、研究開発、キャリア形成の**統合的再構築と関係者の連携**
 - 1) **仕事の場と教育の場の連携**
 - 研究と連動したインターンシップ
 - 共同での教育プログラム開発
 - 2) **業界を越えた専門機関、専門職の連携**
 - 情報管理業務についての発想の転換と、組織・社会における役割、ミッションの再定義
 - 実際の業務に対応した情報管理業務の連携、統合

まとめ

-3:「専門職」とは何か

1) 資本主義、民主主義社会の基盤としての「社会的分業」と「専門」の尊重:

情報管理は「専門的」業務であることへの社会的合意形成

2) 「組織」を越えた視点、社会の視点:

一被雇用者プラスアルファ。「責任」の所在

3) 「専門職」としてのグローバルな連携と、ある「組織」に対する忠誠、責任とのはざままで



ご静聴、ありがとうございました。